

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100565		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名(ユニット名)	楠見グループホームすずらん A		
所在地	和歌山県和歌山市楠見中26-1		
自己評価作成日	平成25年9月22日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「真心介護」という理念に基づき、スタッフが将来過ごしたいと思え、気兼ねなく家族・友人・知人が遊びに来てくれるグループホームを目指しています。
日々の生活の中で一人一人のニーズに応じたサービスの提供が出来るよう、内部研修・外部研修を定期的に行い職員のスキルアップを目指した取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は複合施設の2階部分にあり、ローカを挟んで2つのユニットがあるため利用者が自由に行き来出来る環境にある。管理者は地域の防災委員会の委員長であり、同法人内の管理者達と「火の用心」に回ったり、自治会の避難訓練に利用者に参加したり、また施設が地域の防災の拠点になっており、防火水槽や自家発電装置、備蓄倉庫なども備えるなど地域の人々と、法人が協力しあえる関係づくりができています。夏祭りには自治会に声をかけ近隣の方や家族が参加されたり、保育園の園児が訪問するなど地域との関わりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「真心介護」の額を壁面に掲げる事で、常に意識し共有できる職場環境を管理者と職員でつくり、実践につなげている。	独自に作り上げた「真心介護」の理念を目に留まりやすいところに掲示している。一人ひとり理念を理解し、皆で共有することで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会には事業所として加入し、会合にも参加している。地域の老人会とは運営推進会議・地域の方等の慰問・盆踊りへ参加する事により交流を深めている。又、日頃より地域とのつながりを大切にし、挨拶や相談業務等を積極的に行っている。	自治会に加入し会合に参加する等、情報の交換を行っている。また利用者や職員は地域の方と顔見知りも多く、ふれあう機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・職員は実践により培った認知症の方の理解や支援の方法を活かし、地域の方々との交流の中で相談・助言等を積極的に行っている。又、ネットワークを活かし、相談窓口を広げ、地域に貢献できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂戴した意見・情報を活かし、サービスの質の向上や地域の一人として今まで以上に貢献できるよう取り組んでいる。	毎回家族に会議の案内状を郵送し出欠の確認を行っている。出席者からは意見や要望、情報等を頂き、事業所からは前回の経過報告や、行事の様子をスライドショーで報告するなどしている。また雑談会の時間をとっており、利用者以外の相談など何でも話しやすい関係作りを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新手続き等の事務的な関わりが主となっているが、生活支援課の担当者が訪問された時など機会をみつけて情報の共有を図り、協力関係を築けるよう努めている。	介護保険課には更新時やサービス提供する上で疑問があるときに相談したりしている。生活支援課の担当者とは、利用者の様子を見に訪問されたときには情報交換するなど、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止について、職員会議で話し合う場をもうけ、身体拘束をしないケアを行っている。	年度計画の予定に沿って同法人と協力し、交代制で外部研修に参加している。また、それを職員会議で報告し話し合い、身体拘束しない見守りと声掛けのケアの実践に努めている。エレベーターや階段は施錠をせず、自由に使用することが出来る環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の理念に基づき業務を行う事で虐待は起こらないと考えている。日々の業務の中で、職員同士が各々の対応について確認し合い、より良いケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者様はおられないが、内部研修等を行い学ぶ機会がもてるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の内容を利用者様・家族様にわかりやすく説明するよう心がけ、不安や疑問点を解消し、理解・納得して頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の運営推進会議で代表者が出席し、家族様の意見を伺い、運営に反映できるよう努めています。	運営推進会議や家族が面会に来られた際などに意見等を頂いている。具体例として、主治医より栄養を摂るよう指示のあった利用者家族からの相談を受け高カロリー食を検討し対応するなど、運営に反映出来るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回事業所会議・管理者会議を行い、会社の方針を職員に伝えたり、職員の意見や提案を聞く機会を設け取り組んでいる。	月1回の事業所会議・管理者会議では職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の提案により、利用者が毎日使用する陶器やガラス製品のコップを利用者が持ちやすいよう取っ手の付いたコップに交換するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し、代表者も現場に入り職員の労働環境を観察し改善の努力を行っている。又、管理者会議で活気のある職場環境の整備について話し合い取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や職員による自施設研修を行っている。新入社員には教育担当者をつけることで相互にスキルアップできるよう取り組んでいる。又、外部研修にも管理者・職員が多く参加できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者同士の勉強会に管理者やその他職員を同行させネットワーク作りに励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、利用者様・家族様の要望、困っていること、不安な事等を伺い、事業所として出来る事出来ない事、協力してもらいたいこと等を明確にし、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、要望や困っていること、不安なこと等を伺い、事業として出来る事出来ない事、協力してもらいたいこと等を明確にし安心して生活していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様がどのようなことで困っているかの聞き取りを行い、どのような支援が必要なのかを見極め対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事やレクリエーション、コミュニケーションを通じ利用者と職員が共に喜べる様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	計画作成者や職員が面会時等に本人様の様子をお伝えし、本人様の状態に合わせた介護方法を家族様と共に考え支援に繋げられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が古くからの付き合いの中で築いてきた人間関係を大切に、面会に来ていただいている。	入居前に利用していた美容院や病院には家族が対応して通っている。周辺地域に暮らしていた利用者も多く、家族や親類の面会も多い。お正月には帰宅されたり、お墓まいりに行かれるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日頃から観察し、仲の良い方同士同じテーブルについていただいたり、他者との交流が難しい方には職員が会話の援助を行い交流が図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係性を大切に、困りごとなどあれば相談して頂ける様退去時にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の今までの暮らしや意向をアセスメントしている。又、聞き取りが困難な場合には、家族様より聞き取りを行い利用者様本位となるよう取り組んでいる。	日々の生活の中から本人のしたいこと、出来ること、出来ないことを職員が聞いたり、感じ取ったりしている。また困難な場合は家族からも聞き取りを行いながら利用者の視点に立って支援している。	「自分らしく暮らし続ける」ために本人と家族の思いや暮らしを大切に、職員がその思いを共有して支えて行くことが必要である。利用者の生活歴や家族等の背景が分かりやすく記載されたアセスメントシートの作成を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・家族様に過去の暮らしや、生活環境を伺い現場に伝えるようにしている。又、利用者様とのコミュニケーションを大切にしながら現状の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子やバイタル測定、食事摂取量、水分摂取量、服薬確認、排泄記録を残したり、申し送りノート、昼礼時での申し送りにより現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様からの意向や、介護職員からの聞き取りを踏まえ計画書を作成している。	家族には面会時に希望や意向を伺い、本人には日々の生活の会話の中から聞き取り、それらを職員間で話し合いそれぞれの意見やアイデアを介護計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子を記録し、職員全員が共有し現場で活かせる様にしている。利用者様に状態の変化が見られた場合は都度見直しが必要か検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の状況を知るため、日々コミュニケーションをとり、ニーズに対応できるよう取り組んでいる。又、利用者様の様子や出来事を家族様に伝え、今後の支援を職員全員で検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が古くからの付き合いの中で築いてきた人間関係を大切にし、面会に来ていただいている。又、地域の祭り等の行事に参加し地域密着を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アセスメントの段階で、緊急時の希望病院先を聞き取り、普段の通院先は利用者様・家族様に決めて頂いている。決定後、計画作成者が医師に挨拶に行き情報の共有に努めている。	入居時に本人や家族と相談し希望の主治医を決めてもらっている。事業所の協力医療機関からは往診に来てもらっており、家族にはその様子を電話等で報告をしている。また家族対応で受診するときは生活の様子を家族に伝え主治医に報告をしてもらい、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日昼礼を行い介護職と看護職で利用者様の健康状態の合履くに努めている。体調不良時は医師・看護師の指示にて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には計画作成者が病院と連携をとり、情報収集に努めている。又、退院時のカンファレンスには自施設の看護職員同行で退院後の生活を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	末期がんや終末期における家族様との話し合いの中でターミナルケアについての承諾を得、本人様・家族様・主治医と連携し緊急時に対応できるようにしている。	事業所は看取りのケアが出来る体制をとっており、入居時に重度化や終末期の対応について本人、家族に説明を行っている。また、利用者の状態に応じてその都度家族と話し合いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行い、急変時・事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回実施することで緊急時に対応できるようにしている。又、地域の防災訓練に参加し、地域との協力体制を築いている。	自治会で行われる避難訓練に利用者と共に参加し、訓練を行っている。事業所においても火災訓練を消防署の立会いのもと行っており、訓練時には地域の方たちも参加されている。また事業所は災害時に避難場所として開放するようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に、個々の利用者様に合わせた声掛けや対応を行うよう努めている。	呼称については名字で呼んでいるが本人が希望されたり、名字では分かりづらい時は家族に説明し名前で呼んでいる。またトイレ誘導時には「トイレ」と言う言葉を使わず、さりげなく声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望や思いを出来る限り伺うようにし、出来るだけ希望が叶えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせたプログラムを考え、その方らしい暮らしについて職員間で話し合い、希望に添った支援ができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭をご自身で剃っていただいたり、ご自身でお化粧をして好きな服をきていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の聞き取りを行いメニューに取り入れるようにしている。又、個々の利用者様の状態に合わせて食事準備・配膳・下膳を職員と共に行っている。	テーブル拭きや下膳など一人ひとりができることを行っている。また中庭には菜園があり、そこで作られた野菜を使って調理する時には利用者が皮むきなどをされている。また利用者の嗜好に合わせてメニューの変更も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の状態を日々観察し、その方に合わせた対応ができるようにしている。水分摂取量・食事量の記録をとり、状態に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者様に合わせ、毎食後口腔ケアの介助を行っている。義歯を使用している方は週1回義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の把握ができるよう記録を行っているが、その日の状態により完璧な把握は難しいが、トイレでの排泄が継続できるよう声掛け・誘導等を行っている。	トイレでの排泄を大切にしており、その人に合ったパターンで声掛けや誘導をしている。また利用当初オムツを使用していた利用者が今は自分から排泄の訴えができるようになった事例もある等、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬に頼らず、食事内容等に気を付け消化の良いメニューを栄養士が作っている。又、運動なども取り入れ便秘解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間を午前と午後で設けており、利用者様にどちらの時間帯で入るか決めていただいている。又、入浴日の変更・時間外の入浴等の希望があれば、その都度対応するようにしている。	各日に入浴できるように支援しているが、拒否する人には職員や時間を変えて声掛けを対応している。また本人が入浴したいと言われた時には出来るだけその時に入ってもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に畳スペースがあり、入居の段階で布団か寝台かを選んでいただいている。又、日中も、その日その日の状態で自由に居室で休んでいただける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者様の飲んでいる薬の効果・副作用・用法・用量を把握するよう努めている。又服薬後どのような状態を注意しなければならぬかを薬剤師・看護師に指導してもらい支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴をアセスメントし、利用者様が昔楽しんでおられた事を継続していけるよう支援している。又、定期的に行事を行い気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行きたいとの希望には都度対応している。又、家族様の協力を得ながら外出支援を行っている。	中庭で畑作りや日光浴をしたり、散歩や近隣のスーパーへの買い物、同法人のデイサービスなどに出掛けている。またお花見や初詣にも出かけるなどの外出支援を行っている。近々家族と一緒にバス旅行に行く予定もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に応じて、家族様に了解を得られた場合は、利用者様にお財布を持っていただいている。又、買い物に出た時などにはご自分の財布から支払をしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が不安になられた場合家族様に電話をしてよいか事前に事業所側から伺うようにしている。又、電話することが可能な場合は事業所内の電話を使用し家族様につなぐ支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外から差し込む光は調節可能なブラインドを使用し、明るさの調節を行ったり、湿度計を使用し、心地よく過ごしていただける様に努めている。又、季節に合わせた壁面を飾っている。	それぞれのユニットが同じ階にあり利用者が自由に行き来し易い環境にある。壁には季節感が味わえる、運動会の手書きのポスターや旬の果物が描かれた壁画が飾られている。また加湿器は除菌が出来るものを使用し感染予防にも配慮している。新聞のテレビ欄をコピーし利用者に渡し、好みの番組がないか見てもらうなど居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様を職員が把握し、座席を考え工夫している。又、同じ空間に畳スペースがあるので自由に座っていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様の馴染みの物を置いていただけるよう入居時をお願いしている。又、馴染みの物がない場合は、入居後作ったものや写真、お誕生日の色紙などを飾るようにしている。	居室のドアは車椅子の利用者も自分で開閉が行いやすく、開口幅も広いつくりになっている。また畳の部分があり、布団を敷いて寝たり、テーブルを置いたりそれぞれの好みに応じて使用している。馴染みのものや写真などを持ち込み居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全かつ出来るだけ自立した生活が送れる様手すりを設置し、一人一人の心身機能を活かした行動がとれるよう配慮している。		